

変化を求めた 14 日間

立命館守山高等学校

H. K

2週間のケンブリッジでの学びは、生きる上で重要なことを教えてくれ、私にとってとても価値のあるものになりました。まずはじめに、このスカラシップの実施に携わった全ての方々、そしてレイモンドさんに、心から感謝しています。素晴らしい体験をさせていただき、ありがとうございます。いまあの2週間を思い返すと、私が得た最も大切なものは、間違いなく友達です。短い期間だったにもかかわらず、本音で会話できるほど深い関係を築くことができたことが、本当に幸せでした。そんな友達の多くは、スロバキア、サウジアラビア、アルゼンチンなど、私が話したことも会ったこともない国の人たちばかりで非常に新鮮でした。そんな彼らとたくさんコミュニケーションをとる中で、いくつか考えたことがありました。このエッセイでは、そのうちの3つを話します。実際に経験すること、自分の国について深く知ること、そして自分の力で環境を作っていくことについてです。



まず、私は物事を実際に経験してみるということがどれほど重要か、考えさせられました。つまり、何かをただ頭の中で知っているだけではなく、実際に経験もして知ること、本当の意味でそれを自分のものにすることができるのです。私は、それを実感した出来事がありました。

ある朝ベルスクールで、私は仲の良いメキシコ出身の女の子に会いました。すると彼女は、おはようと言いながら私の頬にキスをしようとしてきました。そのとき私は、そのような挨拶をする国があるということは知識として知っていました。しかし、日本に住んでいるとそれを実際に行うことがなかったため、それが挨拶だと認識できなかったのです。彼女が私の後ろの何かを見ようとしていると勘違いし顔を後ろに向けてしまった私に、彼女は笑っていましたが、人によっては挨拶を拒絶するような行動だったと反省しました。その一方で、はじめてその挨拶をしたことで実体験として深く頭の中に残り、その後に話してくれた挨拶についての話もとても興味深く聞くことができました。このことについて私が感じたことは、何かを知っているからといって必ずしもそれを行動に移すことができるとは限らない、ということです。そのため、学んだことは実践していくという姿勢が必要なんだと改めて感じました。





次に、自分の生まれ育った国、日本のことをよく知っていることは国際交流において極めて大切であることを学びました。毎日、いろいろな友達とお互いの国の話をする中で、私は何回か日本についての知識の不足を感じるようになりました。そしてその不足は、日本にいるかどうかは関係なく、日本人である以上やはりなくさねばなら

ないものでした。

例を挙げると、ある友達が、最近観た映画の中に出てきた昔の日本のシーンについて尋ねてきたことがありました。それは、「昔は犯罪を犯した人に、マークとして強制的に入墨を入れていた、と聞いたが本当なの？」という問いかけでした。しかし私はそのことを知らなかったためにせっかくの会話を広げることができず、非常に残念な思いをしました。彼にとって私は、その場にいる唯一の日本人だったため、私が日本人を代表しているようなものでした。それなのに日本のことを知らなかったことに恥ずかしさを感じ、同時にもっと日本のことを勉強しなければいけない、と強く思ったのです。

さらには、同じ年代の友達が、自分の国の政治はどんなかという先生の質問にしっかりと意見を持って答えている様子を何度も見ました。それに対し私は、意見もなければ基礎知識さえ曖昧でした。これらの経験から私は、グローバル化という言葉が強調されればされるほど、世界と自国との対比も重要になってくる、ということを感じることができたと思います。



最後に、周囲の環境を自分自身で変えていくということについて述べていきます。「環境」という言葉は、自分の付き合う人々でできるものと考えます。つまり、私が学んだ3つ目は、私の行動、考え方が私の皆からの見え方を良いようにも悪いようにもするということです。当たり前聞こえますが、全く知り合いのいない状態で始まった2週間では、このことは何度も頭から離れませんでした。決して周りの目をすごく気にしているという訳ではなく、自分の行動が相手の行動を変えることができると言いたいのです。

たとえば、私が誰かと話しているとき楽しそうに見えなかったら、相手はそれ相応の態度を見せます。反対に、私が楽しそうに、そして相手に対する優しさと尊敬を持って話していれば、相手も同じような態度を示してくれると期待できます。どんな環境に生きるかを決め

るのは、全て私なのです。待つという選択肢は、この2週間の間の私にはありませんでした。おかげで、心を許せる友が世界中に何人もできました。海外だけでなく、この学びを日本でも生かして、自分の力でこれからまた新たな環境を作っていくことが楽しみです。



このエッセイでは、3つの学びについて説明してきました。これらは全て、私が今回の留学をしたからこそ気付けた、または感じたことであり、とても有益な「経験」です。このような経験を重ねることは、やがて自分の自信にも繋がります。実際私には、渡航前より自分という存在に自信があります。些細なことで周りの目を気にしたり、小さなミスで恥らひを感じることは、一度きりの人生を価値あるものにしようと常に考えるようになった今の私にはもったいないと思うのです。将来、どのような職に就きどんな人生を過ごしているのか、全く分からないことに不安があります。しかし、それに答えはないので、将来することの what より how に目を向けて、悔いのない日々を送ろうと思います。今回のスカラシップで学んだことは捨てずに、成長の材料にしながら歩みます。

間違いなく、私の生涯で最も価値のある学びの経験のひとつとなったこの2週間に、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。